

★ 平成 27 年度 日本ヘルカルサイエンス学会「技術賞」を受賞 ★

脳の高度メモリー・識別力を見える化（可視化）できる

世界初!! CMC 波動共振センサー

最先端の“量子力学”と“超ひも理論”の教えるところにより、この世のすべての物質、非物質、現象は、固有の振動数・波形で絶えず振動している。すなわち物質だけでなく、人間の肉体も、意識も、心も、あるいは経済活動も、文明も、つまり目に見える物体も見えない現象も、この世のすべての森羅万象は、波動を出し、固有振動数で振動している。

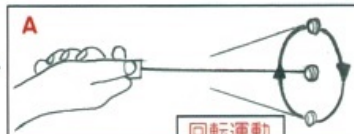
---CMC 波動共振センサーの特長---

CMC 波動共振センサーは、この固有振動の共振・共鳴現象を、極めて簡単に、だれでも、いつでも、どこでも、短時間に、しかも遠隔でも、見える化（可視化）出来ます。

CMC 波動センサーロッド先端の動きのパターンによる波動共振現象の見える化法

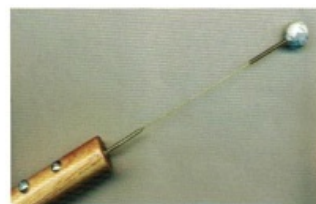
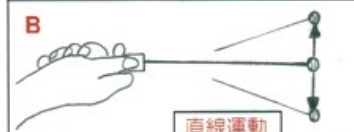
A) 共振現象を示す場合

- ① 身体に異常がない場合
- ② その物質が身体に良い場合
- ③ 両者の成分・構造等が同じ物質の場合



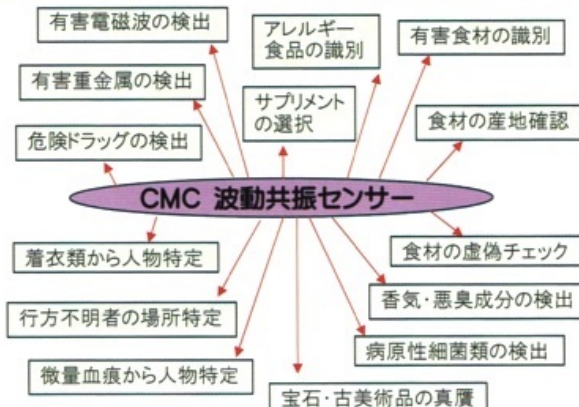
B) 共振現象を示さない場合

- ① 身体に異常がある場合
- ② その物質が身体に悪い場合
- ③ 両者の成分・構造等が異なる物質の場合



センサーロッドの写真

多種多様な情報が簡単に得られます



ビーズの種類	定価(外税)
プラスチック	10,000 円
オパール (タンバク石)	13,000 円
その他ハワーストン	

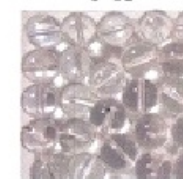
オパール



タイガーアイ



水晶



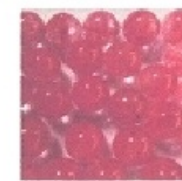
水晶(多面形)



スモーク水晶



ローズ水晶



ピンク水晶



レッド水晶



ヒールズ水晶



イエロー水晶



アムル水晶



アメジスト



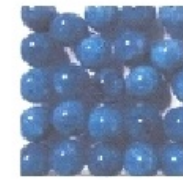
珪花木



ハクライト



グリーンサファイ



アマゾナイト



レイホーオブデイアン



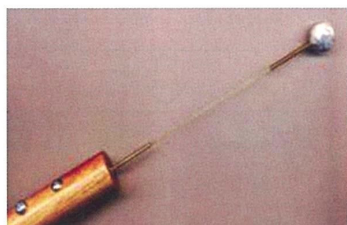
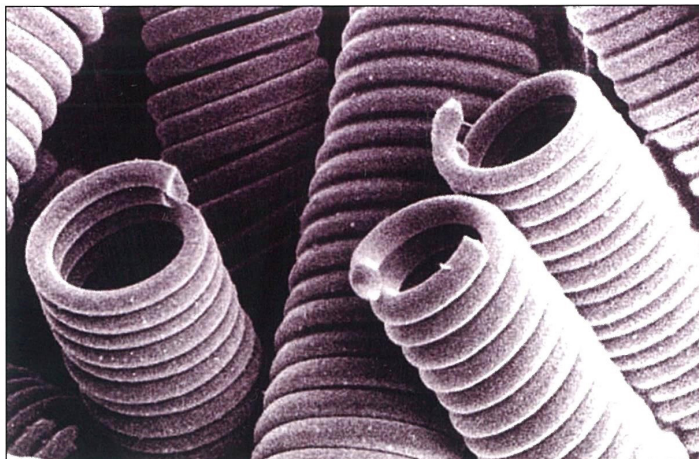
メノウ



グリーン水晶



CMC波動共振センサーの使用法



発売元 (株)CMC 総合研究所

販売会社 株式会社 Manai
〒107-0062
東京都港区南青山2丁目2番15号 ウィン青山942

販売店 店舗
〒520-0802
滋賀県大津市馬場1-3-8 ARCDEUX TEL. 077-525-8010

世界初 人間センサー

CMC 波動共振センサー

- ・超高感度で超識別能力を持っています。
- ・何でも、瞬時に分かります。
- ・誰でも、簡単に、使用できます。
- ・必ず手に持って使用する世界初の
“人間センサー”です。



脳の高度メモリー・識別力を利用 原理的に分子1個でも検出・識別が可能

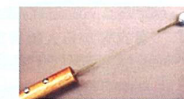
最先端の量子力学と超ひも理論の教えるところによると、この世のすべての物質・非物質・現象は、固有の振動数・波形で絶えず振動しています。その固有振動の共振・共鳴現象をわかりやすく目に見えるようにした（可視化）もので、あらゆる事が分かります。



使用法は極めて簡単、(感性豊かな人なら)

誰でも使用できます。

まるで、おもちゃみたいですが、
凄い、驚きの特性があるのですよ!!



CMCは波動共振センサーロッド

例えば



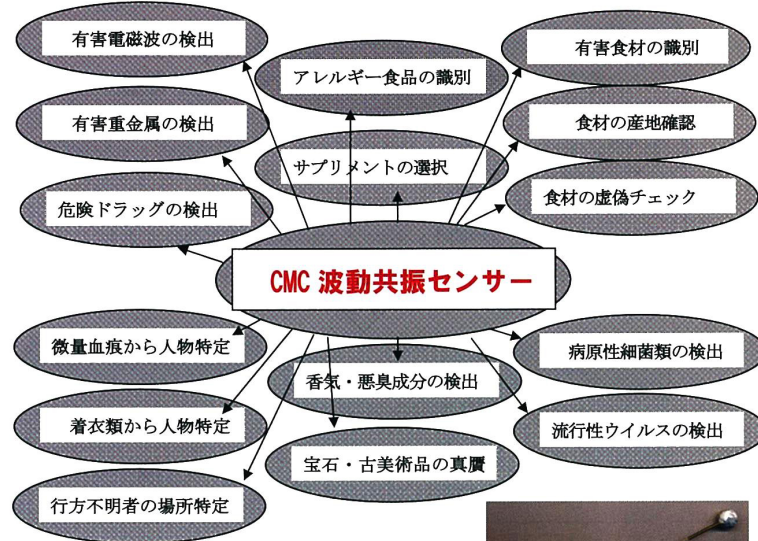
サプリメントの適否/適量/飲み忘れチェック、アレルギー食品のチェック、食中毒菌のチェック、ブランド品・食品の産地虚偽チェック、宝石・材料の成分・組成のチェック、自分の健康状態チェックなど、多数

世界初 超高感度 CMC 波動共振センサー

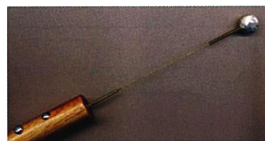
脳の高度メモリー・識別力を利用
原理的に分子1個でも検出・識別が可能

最先端の量子力学と超ひも理論の教えるところによると、この世のすべての物質・非物質・現象は、固有の振動数・波形で絶えず振動している。その固有振動の共振・共鳴現象を可視化し、超高感度の識別能力を持つ、世界初の

“超高感度 CMC 波動共振センサー”は
極めて簡単に、誰でも、いつでも、どこでも、短時間に



ただし、得られる結果はあくまでも波動的情報で参考データであり、事実と異なる場合もあります。この場合、当方はその責任を負いかねます。



CMC 波動共振センサーロッド

CMC 波動共振センサーロッドの概要

(1) 概要

マックス・プランクの量子論・量子力学は、分子、原子、電子、素粒子などのミクロな世界の法則を解き明かす学問である。その根源は、「すべては振動であり、その影響である。現実には何の物質も存在しない。すべてのもの、各々のものは、振動から構成されている」という。一方、一般相対性理論は、宇宙というマクロの世界の性質や運動、それらを包み込む広大な時間と空間（時空）を記述する学問である。近年、量子論・量子力学と一般相対性理論を統合する新しい理論である「超ひも理論」(Super String Theory)が注目されている。この超ひも理論では、宇宙・物質の究極の要素は、粒子ではなく、超微小の振動する「ひも」であり、森羅万象は振動する超微小の「ひも」からなっていると考える理論で、以下のような特徴がある。

- ① 長さが 10^{-35}m (原子 (10^{-10}m)、陽子 (10^{-15}m)、現代科学の検出限界 (10^{-19}m) の1兆分の1のさらに1万分の1)の極小であり、太さはゼロ、質量がある。
- ② 「超ひも」は、プランク距離 (10^{-35}m)以下の超ミクロの世界でのみ存在している。
- ③ 10次元の世界である（現世は4次元で、残りの6次元はプランク距離 (10^{-35}m)という超ミクロの世界に巻き込まれている。
- ④ 閉じた「ひも」と開いた「ひも」があり、これが自由に伸びたり縮んだりして振動している。

すなわち宇宙の根源は、振動する超微小の「ひも」からできており振動しているという。すなわち、この世の中のあらゆる物質、非物質、現象は、絶えず固有の振動数でもって振動し、その固有振動数で発信していることになる。

発信された波動の振動数が同じ場合には、互いに共振・共鳴するという現象が起こる。この波動の共振・共鳴現象は、古くから、ダウジング(地中探査)法として、地中に隠れた水源、金鉱脈、油田、断層等を探し当てするのに使用されている。この方法では、水脈や鉱脈がある場所の上に来ると、手にしたロッドが突然、自然に動き出し、その存在を教えてくれる。

この波動の共振・共鳴現象を健康・医療分野へ活用したのが、もともとはドイツの掘削マシンの技術者・開発者であり、ダウジングと言う地中探査法に興味を持ったドイツのパウル・シュミットである。彼は、ダウザー（ダウジングを専門に行う人）が持ったロッドが自然に動き出すのは、地中に隠れているもの（鉱脈、水脈、断層など）が発する波動(=振動)によるものであると確信を抱き、その波動をとらえることに成功し、独自のバイオレゾナンス（生体共鳴）

法¹⁾を開発した。パウル・シュミットは、例えば、地下水脈なら 64.00、断層なら 14.00 (コード化された番号) というような基本周波数を持つ波動であることを突き止めた

ドイツでは、昔から地下の水脈や断層などから放射される波動が病気の原因となり、それとも不眠症やガンに至るまで、様々な身体的悪影響を及ぼすと考えられてきた。

パウル・シュミットが開発したバイオレゾナンス (生体共鳴) 法では、波動を目に見えるようにする為に、螺旋状のアンテナのついた金属製ロッド (波動センサー) を用いている。その方法は、以下の通りである。

(物質間の場合)

- ② 二つの物質の間にセンサーの螺旋状先端を入れて、その根本を手に軽く無心に持っている。
- ② 二つの物質が同じである場合は、先端が次第に動き (回転) 出す。
- ③ 二つの物質が異なる場合には、ロッドの先端は全く動かない。

(人体の場合)

- ① センサーの螺旋状先端を健康な人に近づけると、先端が自然にクルクルと回転し出す。
- ② 被験者に異常がある場合には、回転ではなく、左右又は上下に直線的に振動する。

シュミットは、健康な人の場合センサーロッドの先端が回転するのは、「古代インドで考えられたチャクラのように、そこには生命エネルギーが渦を巻いているからだ」と推測した。宇宙の「銀河の渦」を例にあげながら、「**回転運動は安定と正常の印である**」と説明している。

このバイオレゾナンス法では、まず、

- ① 自然界にある特定の周波数の波動を選択して送り出し、これと共鳴する同じ周波数の波動を検出する。
- ② 気の滞りと共鳴現象を起こす同じ周波数の波動は、その滞りをハーモナイズ (波動調整) して解消する波動でもあるので、その周波数の波動を送り続けてハーモナイズ (波動調整) して滞りを解消する。
- ③ この際に共鳴現象を可視化するのに用いられるのが、螺旋状のアンテナのついたセンサーロッドである。

バイオレゾナンス法で用いている金属製のセンサーロッド (波動センサー) では、その先端に金属製の螺旋状のアンテナがついており、これに外部からの波動を受けてロッドが運動 (回転運動あるいは直線的運動) をすると考えられている。また、その対象は健康に悪影響を及ぼす波動的な危険因子の検出や、身体内部における生体エネルギー (気のエネルギー) の滞りの検出とその緩和・

開放に限定されている。また、センサーロッドは高価な波動送信器に電氣的に接続させる必要がある。

同じように、波動の共振共鳴現象を用いて健康チェックを行う方法として、大村恵昭教授が開発したオーリングテスト法 (BDORT, Bidigital O-ring Test)²⁻³⁾、フーチ法、矢山利彦医師が開発したバイオレゾナンス法⁴⁾などがある。BDORT法では、共鳴現象が起こると、被験者の指の筋肉が弛緩し二つの指でつくったリング (Oーリング) が、検査者が左右に引っ張ると簡単に開いてしまうという方法を用いている。

これらの既存の方法は、高度の熟練が必要であったり、一般の人にはわかりにくく、言霊や形霊を用いることができず、また高価な装置が必要であるなどの多くの欠点がある。また、いずれの方法も検査者が必要であり、一人で自身自身の健康状態をチェックすることは極めて困難である。

ドイツのパウル・シュミットが開発したバイオレゾナンス法で用いられるセンサーロッドは、先端に金属製の螺旋状アンテナがついておりその存在は必須である。また、必ず電気コードを通して電氣的に波動発信器に接続させる必要があり、単体での使用はできない。また、単体で使用した場合、波動の共振共鳴が起こっているかどうかの識別や検出はできない。

(2) 波動共振センサーロッドの構成

波動共振センサーロッドは、片手 (図1, No1) で把持して腕の表面振動を弾力性金属線 (No.3) を通して先端ビーズ (No4) の運動 (回転あるいは直線運動) を起こさせる為、直径が 5~50mm、最も好ましくは 15~25mm の、木製が好ましい。

その中心部には弾力製金属線を保持するための金属チューブを挿入・固定し、その中に弾力製金属線 (ワイヤー) を挿入固定する。

ワイヤーの種類は、弾力性があり、腐食に強い、スチール線、ステンレス線、ピアノ線、真鍮線、チタン線、炭素繊維強化プラスチック線等、種々のものが使用できる。

ワイヤーの先端には、荷重として球状のビーズを接着・固定化する。ビーズの材質は、種々のセラミックスビーズ、金属製ビーズ、炭素繊維複合プラスチックビーズ等が利用できる。

回転運動や直線運動をスムーズに起こさせる

ために、形状はワイヤー軸に対して対称的な球形が最も好ましい。その表面は平滑であることが最も望ましいが、多角形や規則的な凸凹のある形状でも利用

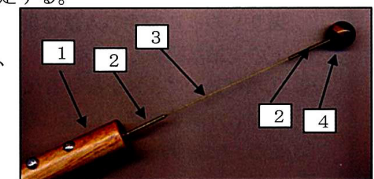


図1 CMC 波動共振センサーロッド
1) 取手、2)補強金属チューブ、3)弾力性金属線、4)ビーズ

できる。ドイツのバイオレゾナンス法で用いられるような螺旋形状の金属製アンテナを弾力性ワイヤーの先端につける必要は全くない。また、金属線をコードを通して波動発信器に接続させる必要もない。

識別能力や検出感度を向上させるためには、弾力性ワイヤーの材質、直径及び長さは、用いる先端のビーズの大きさや重量により調整する必要がある。例えば、弾力性ワイヤーの長さは、回転や上下運動の周波数に影響し、非常に短く 50mm 以下の場合には運動の周波数は非常に早くなり、回転と直線運動の見分けが困難となり感度も非常に落ちる。一方長すぎる (1,000mm 以上) と回転や直線運動が非常に遅くなり、それらの間の見分けが困難となり、識別能力や感度は非常に小さくなる。

(6) 言霊法あるいは形霊法について：

言葉にはその言葉固有の震動(固有振動数)を持っているので、現実の物質との波動の共振状態を知ることによりその物質を同定することができる(言霊法)、同様に文字(手書き、ファクス、電子メールの文字でも OK)や画像(写真、絵、彫刻、モニュメントなど)などでも同様である(形霊法)。これらの波動共振状態は、本発明による波動共振センサーで容易に知ることができる。その例のいくつかを示す。

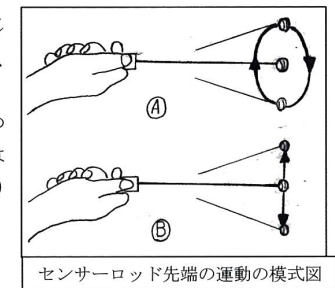
- ① センサーロッドを右手にやや上向きに持ち、最初に意識して少し上下の直線運動(起動)をさせた後、左手で目の前のイチョウの木を指さしながら、“あなたはイチョウの木ですか”と声をかけたところ、センサーロッドの先端は突然自然に直線運動から回転運動を始めた。次に、“楠の木ですか”、“桜の木ですか”、“檜ですか”など、異なる木の名前を言ったところ、いずれの場合も直線運動をした。
- ② ①項に於いて、声を掛ける代わりに “イチョウの木”、と書いた紙を左手に握りしめ、この手の人差し指をイチョウの木に向けたところ、センサーロッドの先端は回転し始めた。
- ③ ①項に於いて、声を掛ける代わりに “イチョウの木” の写真あるいはこれを印刷した紙を左手に握りしめ、この手の人差し指をイチョウの木に向けたところ、センサーロッドの先端は回転し始めた。
- ④ イチョウの木の切れ端を左手に握りしめ、その手の人差し指を “イチョウの木” と書いた紙に向けたところ、センサーロッドの先端は回転し始めた。この場合、紙に書いた文字には、相当する物質に関するあらゆる情報・固有振動数がメモリーされていることを示しており、文字と実物とは同一視できることを示している。

CMC 波動共振センサーロッドの使用法

(A) 予備練習

CMC 波動共振センサーは、手で持ったセンサーロッド先端の動きの状態から、波動の共振・共鳴状態を判断しますので、まず、ロッド先端が無意識にスムーズに動くように予備練習する必要があります。

- ① 先ず、利き腕にセンサーロッドの柄の部分を持ち、意識して手首を動かして、センサーロッドの先端部分を少し回転運動させます。(最初にセンサーを起動させる事が重要です)
- ② 次に、手を動かさずに、意識しないで(無意識の状態)、先端の運動状態を観察します。
- ③ 先端部分の運動は、
 - (あ) いつまでも同じ回転方向で自然な回転運動を続けるか(最初右回転していたものが次第に回転運動が小さくなり、こんどは左回転をはじめ次第に大きくなる場合もある)、(右図 A)
 - (い) 次第に回転運動が小さくなり、つぎに直線運動(上下運動あるいは左右運動)に変わるか、(右図 B)
 - (う) 全く動かなくなるか、のいずれかとなります。



これを何回か繰り返し、無意識状態で、自然な回転あるいは直線運動が起こるように練習してください。

(B) 外界からの波動(信号)の受信方法

外界(物質や現象)から発せられる波動(信号)は、

- (あ) 対象とする物質を眼で見ると、これから発生される波動(信号)は眼から入って脳に伝えられます。
- (い) 対象とする物質(あるいは身体の一部)を指先で指向すると、これから発生される波動(信号)は腕を通して脳に伝えられます。
- (う) 手のひらに実際の物質(現物)や写真などの画像あるいは文字を書いた紙(形霊)を握りしめると、これらから発生される波動(信号)は腕を通して脳に伝えられます。この場合、複数のものを握りしめると、それ

どれから発生される波動（信号）のいずれも脳に伝えられます。
（え）ある意味のある内容を声に出す（言霊）と、耳を通して脳に伝えられる。

（C）脳における信号処理とセンサーロッド先端の動きとの関係（推定）

外界から五感を通して脳に入ってきた信号は、

- （あ）人類の長い進化の過程で蓄積されてきた膨大なデータと照らし合わせて、身体に良いものか、あるいは悪いものかを判断し、その結果を皮膚振動（数十ヘルツと言われる）として腕を通して手首に伝え、センサーロッドの動きを発生させます。
- センサーロッドの先端部分の動きは、身体に良い場合には自然な円運動を、悪い場合には上下あるいは左右の直線運動をします。身体に良いか悪いかの程度は、（円あるいは直線）運動の大きさに比例します。例えば身体に非常に良い場合には大きな円運動を、非常に悪い場合は大きな直線運動をします。どちらでもない両者の中間的な場合には、長い楕円運動をします。
- （い）複数の信号が脳に入ってきた場合（例えば外界と身体（全体あるいは特定の部位））には、両者の固有振動が共振するかしないかを判断し、その結果を皮膚振動（数十ヘルツと言われる）として腕を通して手首に伝え、センサーロッド先端の動きを発生させます。両者が強い共振現象をする場合には大きな円運動を、逆に全く共振しない場合には大きな直線運動をします。
- （う）大きな円運動をする場合には、両者は全く同じ物質であるか、あるいは互いに強い影響・効果を及ぼす事を示しています。

（D）具体的使用法

① 食品の安全性評価法

利き腕でセンサーロッドを水平あるいは少し斜め上方向に傾けて持つ。

- （1）手首を僅かに動かして先端を起動（故意に円運動あるいは直線運動させる）させる。
- （2）対象物（食品）を目で見て、あるいは反対側の手の人差し指で指向しながらセンサーロッド先端の動きを観察する。この場合、対象物の写真などの画像でも良い。
- （3）センサーロッド先端の動きが安定化するまで待つ。
- （4）安定的な円運動が継続される場合には、その食品は身体には害は無

い事を示している。回転方向はどちらでも良い。一方、直線運動をする場合には、その食品は身体には良くないことを示している。

- （5）例えば、食中毒の原因となるノロウイルスの付着が危惧される場合には、「ノロウイルス」のサンプルあるいは「ノロウイルス」と書いた紙を指向する手に握りしめて、食品に向けて人差し指を指向してセンサーロッド先端の動きを観察する。はっきりとした大きな円運動をする場合には波動共振を示しており、その食品がノロウイルスで汚染されている事を示している。

② サプリメントの選択と適量の判断法

- （あ）自分の身体に合ったサプリメントを捜すには、先ず、ネットなどから適当なサプリメントの画像を紙にコピーする。
- （い）コピーした紙を手に握りしめ、その人差し指を自分に向けて指向するか、あるいは拳を自分の身体に密着させる。
- （う）円運動が最も大きなものは、自分の身体と波動共振するので服用効果が期待できる。
- （え）画像の横に、1錠、2錠などと、服用数量を書き、最も円運動の大きな数量が自分の身体には最適である事を示している。量が少なすぎる場合あるいは多すぎる場合には直線運動をする。
- （お）複数のサプリメントの飲み合わせ・複合効果を調べるには、それぞれのサプリメントと一緒に手に握りしめて、先端の動きを観察する。円運動をすれば飲み合わせ上の問題はなく、それぞれの単独の場合より大きな円運動をするようであれば大きな複合効果があることを示している。

③ 宝石・芸術作品の鑑定法

- （あ）宝石の実物を手に持ち、調べたい対象物をその手の人差し指で指向した際の、センサーロッド先端の動きを観察する。先端が円運動すれば、対象物は手で持った宝石と同一である事を示している。
この場合、宝石の写真などの画像あるいは宝石の名前を書いた文字でも良い（形霊法）。
- （い）宝石の化学成分を書いた紙を手に持ち、（あ）と同様に観察する（形霊法）。
- （う）対象物を指向しながら、「あなたはダイヤモンドですか」などと、声をかけながらセンサーロッド先端の動きを観察する（言霊法）。
- （え）芸術作品などの対象物を指向し、あなたは本物ですか？偽物ですか？

贗作ですか？と問い、センサーロッド先端の動きを観察する(言霊法)。

② 物質の同定法

物質 A が物質 B が同一物質であるかどうかは、化学分析や機器分析をしなくても、センサーロッド先端の動きで簡単に知ることができる。

例えば、既知成分・物質のサンプル、その写真などの画像あるいはその名前を書いた紙をセンサーロッドを持っている手の反対側の手に持ち、その人差し指を対象とするサンプルに向けた際、センサーロッド先端が円運動をすれば同一物質であり、直線運動をすれば違う物質である。

CMC 波動共振センサーロッドの仕様

材質：柄の部分： 桐材、ニス塗り仕上げ

共振線：真鍮製、直径 0.6~0.8mm

先端： ① プラスチックビーズ

② オパール（タンパク石）(標準)

③ その他のパワーストーン

- ・水晶、レッド水晶、ピーチ水晶、イエロー水晶、グリーン水晶、スモーク水晶(煙水晶)、ルチル水晶、紫水晶（アメジスト）
- ・アマゾナイト(希望の石)
- ・アゲート(メノウ)
- ・ハウライト(ハウ石)
- ・タイガーアイ（虎目石）
- ・フォークスアイ(鷹目石)
- ・珪花木
- ・レインボウオブシディアン(黒曜石)
- ・グリーンサーペンディイ(蛇紋石)

センサーロッドの回転や直線運動が起こるメカニズム

センサーロッドの回転や直線運動が起こるメカニズム（機序）は、現在のところ解明されていない。

外界からの刺激や情報は五感を通して波動（全てのものは固有振動数の波動を出している）として脳に入り、そこで人類の進化の過程で蓄積されてきた膨大なメモリーと照らし合わせて、その個体（身体）にとって、有益・無害であるか、あるいは有害があるので避けるべきであるかなどを判断し、これが脳波の変化となって表れる。その**脳波の変化は、有益・無害な場合には、正常で安定した螺旋運動を示し、逆に有害の場合には歪んだ直線的な運動を示すと考えられる**。脳波の変化は皮膚の表面振動を同期的に引き起こすといわれている。したがって、この皮膚の表面振動が手に持ったセンサーロッドの動きを誘発し同期的な動きを引き起こすと考えられる。この場合、意識して手に力を与えて故意な運動を引き起こそうとすると、脳波は正常な形で手の筋肉振動として伝えない。意識した手の筋肉の動きによってセンサーロッドの動きが表れるとの考え方もあるが、筋肉の動きは主として意識下で起こるので脳波の変化には対応しないと考えられる。

単一の情報（波動）が外界から脳に入った場合には、脳に蓄積されている膨大なメモリーと照らし合わせて判断されるが、同時に複数の波動が入った場合にはそれらの波動が同じ（固有振動数が同じ）であるかどうかで判断されると考えられる。したがって、同じ場合には互いに共振して円運動を示すが、異なる場合には直線運動を示す。

センサーロッドの回転運動と直線運動との違いは、皮膚の表面振動の波形が正常で安定な場合には螺旋運動をするので、これが手に持ったセンサーロッドに伝わり増幅されて、無意識下での回転運動を引き起こす。信号の増幅は、先端におもりのついている長い弾力性のワイヤーを通して増幅される。

したがって、人体は増幅器としても作用しているので、センサーロッドを机

の上に置いたりした場合には全く動作しない。

(補足)

外界から五感を通して脳に入ってきた信号(波動)は、

- ① 人類の長い進化の過程で蓄積されてきた膨大なデータベースと照らし合わせて、身体に良いものか、あるいは悪いものかを判断し、その結果を皮膚の微小振動(約十ヘルツと言われている)、「不覚筋動」として腕を通して手首に伝え、センサーロッドの動きを発生させる。この皮膚振動は、正常な規則的な螺旋運動(右回転あるいは左回転の円偏波)あるいは直線運動(直線偏波)をしており、これが腕を通して増幅され、これがセンサーロッドに伝えられさらに増幅されて円運動あるいは直線運動をひき起こすと考えられている。
- ② センサーロッドの先端部分の動きは、身体に良い場合には自然な円運動を、悪い場合には上下あるいは左右の直線運動をする。身体に良いか悪いかの程度は、(円あるいは直線)運動の大きさに比例する。例えば身体に非常に良い場合には大きな円運動を、非常に悪い場合は大きな直線運動をする。どちらでもない両者の中間的な場合には、長い楕円運動をする。また、二つの物質が全く同一(成分、成分比、構造も含めて)で、固有振動数も全く同じ場合には円運動を、少しでも違う場合には直線運動をする。円運動は共振・共鳴が起こっている証で、これを可視化したものと考えられる。
- ③ 複数の信号が脳に入ってきた場合(例えば外界と身体(全体あるいは特定の部位))には、両者の固有振動が共振するかしないかを判断し、その結果を皮膚振動(約十ヘルツ)として腕を通して手首に伝え、センサーロッド先端の動きを発生させる。両者が強い共振現象をする場合には大きな円運動を、逆に全く共振しない場合には大きな直線運動をする。
- ④ 大きな円運動をする場合には、両者は全く同じ物質であるか、あるいは互いに強い影響・効果を及ぼす事を示している。

ダウジングでロッドが何故自然？に動くのか

ダウジングでは「ロッド」が使われる。これは、ダウザーが手に持っている二又の棒や振り子のことである。一般にこのロッドは、地下にある対象物から出る「波動」のようなものに反応して動いているかのように思われていることが多い

しかし本当なのだろうか。この疑問を検証したのが、生理学者と心理学者でもあったジャン・メルタ博士である。博士は実験で、ダウザーの手首の筋肉の収縮を記録できる装置と、ロッドの振動を検出できる装置を使って双方の動きを記録した。すると、ロッドが動く0.5秒前に手首の筋肉が収縮していることがわかった。つまりロッドはダウザー自身が動かしていたことになる。ただし、この動きは意図的なものではなかった。「不覚筋動」と呼ばれる本人も無自覚な筋肉の動きだった。これは筋肉が緊張状態にあると起こりやすいもので、「マッスル・リーディング」などはこの不覚筋動を利用して相手の考えを読んでいる。また「こっくりさん」も不覚筋動が原因とされ、質問に対する答えの動きは、本人の期待や予想が反映される。ダウジングも基本的に同じだ。相談ごとのような質問の場合、自分が望んでいる答えに合わせた動きを無意識にしていることが多い。

振り子やロッドは超自然的な力で動くのではなく、あくまで腕の筋肉により動くものである。ただしそれは作弄的な力によるものではなく、水や鉱物が持つ固有のエネルギーを潜在意識が感知して、それが顕在意識を経由せずに腕の筋肉に伝わり、振り子やロッドの動きとして増幅されるというメカニズムであると謳っているが明確なエビデンスは存在しない

CMC 波動共振センサーの応用例（１）

病原菌、ウイルスなどの同定法と人体に対する有害性評価法

病原菌やウイルスなど、すべて固有の波動を持っているので、波動共振センサーロッドで簡単に同定ができ、また人体への有害性もわかる。下記のウイルス、病原性細菌、有害物質、有用菌などの文字を書き、あるいは実物を左手に握りしめ、右手のセンサーロッドの動きを観察した。

生きた実物の酵母菌を左手に握りしめ、その人差し指を「酵母菌」と書いた紙に向けながら、右手のセンサーロッドの動きを観察した結果、きれいな円運動を示した。逆に「酵母菌」と書いた紙を左手に握りしめ、その人差し指を実物の酵母菌に向けたところ円運動を示した。

以上の実施例により、紙に書いた文字には、その文字の相当する実物と同じ波動がメモリーされており、その実物質と同じ固有振動数を発信していることがわかる。

従って、以下、種々のウイルスや細菌などの名前を書いた紙を使用し、センサーロッドの動きを観察し、直線運動（身体には悪い影響を及ぼす）か円運動（身体に良い）するかを

テストした。その結果、下記にあげたウイルス、病原性細菌、有害物質などはすべて直線運動を示し、人体に有害であることがわかった。一方、酵母菌などは円運動を示し、有害でないことがわかった。

（実施例）

（Ａ）直線運動（身体に有害）を示すもの

（ウイルスの例）

- ・ノロウイルス
- ・A型インフルエンザウイルス
- ・B型インフルエンザウイルス
- ・C型インフルエンザウイルス
- ・マイコプラズマ・ウイルス
- ・サイトメガロウイルス
- ・エイズウイルス
- ・エボラ熱ウイルス
- ・H5型鳥インフルエンザウイルス
- ・H5N8型鳥インフルエンザウイルス

（病原性細菌の例）

- ・大腸菌
- ・緑膿菌
- ・肺炎球菌
- ・セラチア菌
- ・黄色ブドウ球菌
- ・ボツヌリス菌
- ・破傷風菌
- ・炭疽菌
- ・ジフテリア菌
- ・結核菌
- ・淋菌
- ・チフス菌
- ・腸炎菌
- ・ボツリヌス菌
- ・ウェルシュ菌
- ・サルモネラ菌
- ・ピロリ菌
- ・レジオネラ菌
- ・ムコール菌
- ・多剤耐性菌
- ・リケッチア
- ・クラミジア
- ・赤痢菌

（人工甘味料などの例）

- ・アスパルテーム
- ・アセスルファムカリウム
- ・サッカリン（サッカリンナトリウム）
- ・ズルチン
- ・チクロ（サイクラミン酸）
- ・ネオテーム

（薬品、洗剤、化粧品などの例）

- ・アセトン、ベンゼン、アルコール
- ・シンナー、塗料
- ・合成洗剤、整髪料
- ・化粧品
- ・歯みがき、合成のり

（農薬などの例）

- ・ダイシストン（有機リン系殺虫剤）
- ・マラチオン（有機リン系殺虫剤）
- ・ゴキブリ用殺虫剤
- ・エトキシシン（魚粉の発火防止剤）

（食品の例）

- ・精製白砂糖
- ・精製食塩
- ・コココーラ
- ・ノンカロリー表示食品・飲料水

（Ｂ）円運動（身体に害がない）を示すもの

（有用菌類、その他）

- ・乳酸菌、酵母菌、イースト菌・アミノ酸
- ・ビタミンA、B、C、D

CMC 波動共振センサーロッドの応用例（２）（犯罪捜査関係）

（実施例１）痕跡の血痕から人物特定

痕跡の血液が付着した衣類について、その人の血液と思われる人の住所・名前を書いた紙を左手に握りしめ、その人差し指を衣類の血痕方向に指向したところ回転運動を示した。一方、これから少し離れた部分では直線運動を示した。また、この衣類を150リットルのお湯の入った風呂ですすぎ、その水に向けて指向したところ回転運動を示した。すなわち痕跡の血痕でも人物の特定ができることが分かった。また洗濯後の衣類でも人物の特定が可能であった。

（実施例２）死体、骨の所在地・人物の特定

墓地に埋葬されている遺骨の所在確認の為、その人の名前を書いた紙を左手に持ち、人差し指を墓地方向に指向しながら右手のセンサーロッドの動きを観察した。300m離れた距離から墓地方向に向けると回転運動をし、その方向から1-2度ずれると直線運動をした。その間に建物、鉄筋の建物、巨大な石碑があってもその影響は受けなかった。

墓地の直近で360度方向を変えて測定したが、いずれもその人のお墓の方向のみで回転運動をした。

また、可能性がある人物の住所・氏名を書いた紙を左手に持ち、その人差し指

を死体・骨などに指向したとき、回転運動が観察されれば、その人物のものである。複数以上の人物の名前を書いた紙を持ってテストすることも可能である。この場合、回転運動が観察されれば、その複数の人物の内の誰かであるので、人物を絞りながらテストすれば人物の特定で可能である

（実施例 3）行方不明者の捜索

行方不明者の住所・氏名を書いた紙を左手に持ち、その人差し指あるいは先端の尖った指示棒（導電体でも絶縁体でも OK）で地図上のある点を示したとき、右手のセンサーロッドが回転する点（場所）にその人は存在していることが分かった。

（地図上にもその人物野波動がメモリーされている）

（実施例 4）人物の所在方向の特定

地図上で東北東に約 20 k m離れた場所にいる人物の居場所確認の為、右手に CMC 波動共振センサーを持ち、左手にその人物の名前を書いた紙及び先の尖った長い鉛筆を持ち、その鉛筆の軸方向をコンパス上で順次変化させたところ、東北東に向けた時に共振状態の円運動を示した。しかし、この方向から 1・2 度左方向、あるいは右方向に向けると共振状態は示さなかった。次に 300km 離れた場所にいる人物に対しても同様に実験を行ったが、同様の鋭い方向探知能を示した。

最も簡単には、探したい人物の名前を書いた紙及び適当な指示棒を左手に持ち、その指示棒で地図上あるいは航空写真上の基盤の目状に引いたマス目を順次差しながら右手のセンサーロッドの動きを観察し、回転運動をした場所にその人物（遺骨）が存在する。

（実施例 5）防犯カメラ映像からの人物特定

犯罪が起これと監視カメラに写った人物の特定化が、事件解決の有力な手法となっている。

しかし、写っている人物がピンぼけであったり、顔がわからず、身体の一部だけ、あるいは裏向きであったり、遠くすぎて人物像がどうかわからない場合が多い。このような場合、波動法は極めて有力な犯人同定法となりうる。たとえば既知の同一人物が、顔が不鮮明、頭以外の身体の一部だけ、裏向き、遠方などに写っているだけの映像について、その既知の人物の鮮明写真、あるいは名前（同姓同名の場合もあるのでできれば住所まで）を書いた紙を左手に持ち、その人差し指を映像の人物が写っていると思われる方向に向けながらセンサーロッドの動きを観察する。同一人物であれば円運動をするし、異なれば直線運動をする。結論的に、防犯カメラ等に映っている映像で、顔部分がピンぼけの写真、後ろ

向きの写真、身体の一部だけが見える写真等からも人物の特定が 100%可能である。また、着衣の一部、履いていた靴、着用していた帽子・マフラー・装飾品、使用していた寝具、毛髪・皮膚・爪の小片（0.1mm 以下でも OK）等般も人物の特定が 100%の確立で可能である。洗濯したものでも特定が可能である。例えば、20m 離れた場所に置いた洗濯・乾燥した着用靴下の着用人物の特定が可能であった。これらの具体例を以下に示す。

（実施例 5）

ある特定人物が写っている写真について、その写真では顔の部分が極めて不鮮明でその特定人物かどうかははっきりとは特定ができないので、その人物の写真を左手に持ち、その手の人差し指を不鮮明に写っている人物像の方向に向けたところ、円運動を示し、顔部分が不鮮明ではあるが、その特定人物の像に間違いがないことがわかった。

（実施例 6）

前項で後ろ向きに映った映像について、人物の特定は極めて困難であるので、その人物の写真を左手に持ち、その手の人差し指を不鮮明に写っている後ろ向きの人物像の方向に向けたところ、円運動を示し、後ろ向きではあるがその人物像に間違いがないことがわかった。

（実施例 7）

遠方の木の陰に足の部分のみが写っている写真について、その人物の写真を左手に持ち、その手の人差し指を写真に写っている足の方向に向けたところ、円運動を示し、足部分のみではあるが、その人物像に間違いがないことがわかった。

以上のように、映像では不鮮明で人物の特定化は困難であっても、波動法を用いることにより、特定化は十分可能である。

CMC 波動共振センサーの応用例（3）（農業・漁業・樹木関係）

食材、野菜、魚介類、肉類、樹木などの産地の特定、確認、ブランド品の確立

植物が生育している環境(地域、地質、肥料分、地下水、地磁気、気候など)はそれぞれ異なっているので、異なる固有振動をもっており、従って産地の特定化が可能である。全く同じ場所で生育したもののでも株が異なると波動的に異なる。従って、国内産？愛知県産？北海道産？輸入品？アメリカ産？カナダ産？という生産地の特定ができる。これらをいくつかの実施例で示す。

また、魚介類等は、河川の環境や地質・植生、水質、海流、海底の地質・植生、地磁場、気候などにより、牛、豚、鶏等は養育された土地、植生、地磁場、気候などにより、その固有振動は著しく影響される。したがって、ブランド品

の産地特定化が可能である。これらをいくつかの実施例で示す。

(実施例 1)

全く同じ袋に入ったホウレン草の種を別々の畑に蒔いて成長したホウレン草について、それぞれの葉っぱを1片ずつ一緒に左手に握りしめ、右手に持ったセンサーロッドの動きを観察した結果、大きな直線運動をし、回転運動は観察できなかった。また、一つの畑でとれたホウレン草の葉っぱを左手に持ち、その人差し指を他の畑でとれたホウレン草に向けたがやはり直線運動のみであった。両地区は、約1 km離れており、標高差は約50 m、土地の地質は片方は砂地であり他方は火山性の赤土である。従って双方の畑は地質、肥料分、地磁気、気候が多少異なっており、それらの影響を受けて成長した野菜も異なる固有振動を持っているため、波動的に同一(回転運動)とならなかったものと考えられる。

(実施例 2)

同じ場所に約10 cmの距離に隣接して生えているタンポポの2株のそれぞれから葉っぱを1枚ずつ採取し、この2枚の葉っぱを一緒に左手に握りしめ、右手に持ったセンサーロッドの動きを観察した結果、大きな直線運動をし、回転運動は観察できなかった。すなわち、同じ種類の植物で最近接していても、株が異なると、波動的に異なる信号を示した。一方、一つに株から採取した葉っぱを左手に持ち、その人差し指を、その葉っぱを採取した株の葉っぱに向けたところ、きれいな回転運動を示した。すなわち同じ株の中ではどの葉っぱも波動的に同じ固有振動を示すことがわかった。

(実施例 3)

前項と同じ方法で、隣同士に植えられたドウダンツツジ、椎の木、栗の木の葉っぱについて、同様にテストしたところ同様の結果が得られた。次に、木の葉っぱを左手に持ち、これを採取した木の幹に向けてテストしたところ、きれいな回転運動を示した。逆に幹に左手を接触させ、その人差し指を、地上の約5 m離れた位置に置いた同じ木から採取した葉っぱに向けてながらセンサーロッドを観察したところ、きれいな回転運動を示した。すなわち同じ株の全体が波動的に同じであることがわかった。

(実施例 4)

スーパーに北海道産としての並んでいるトウモロコシについて、アメリカ産ですか？と声に出して問うたところ直線運動を示し、国内産ですか？と問うたところ回転運動を示し、長野県産ですかと問うたところ直線運動を示し、北海道産ですかと問うたところ回転運動を示した。また遺伝子操作したトウモロコシですかと問うたところ直線運動を示した。したがって、このトウモロコシは、遺伝子操作をしてない北海道産であり、正しい産地表示であり、食材の虚偽表示

ではないことが分かった。

(実施例 5)

実物のキャベツの葉を左手に握りしめ、その人差し指を「キャベツ」と書いた紙に向けながら、右手のセンサーロッドの動きを観察した結果、きれいな円運動を示した。逆に「キャベツ」と書いた紙を左手に握りしめ、その人差し指を実物のキャベツの向けたところ円運動を示した。

(実施例 6) 実物のタマネギを左手に握りしめ、その人差し指を「タマネギ」と書いた紙に向けながら、右手のセンサーロッドの動きを観察した結果、きれいな円運動を示した。逆に「タマネギ」と書いた紙を左手に握りしめ、その人差し指を実物のタマネギに向けたところ円運動を示した。

(実施例 7)

左手の人差し指を、メキシコ産と表示してある天日塩に向けながら、国内産ですか？と問うたところ直線運動を示し、外国産ですか？と問うたところ円運動を示した。つぎにオーストラリア産ですか？と問うたところ直線運動を示し、アメリカ産ですか？と問うたところ直線運動を示し、メキシコ産ですかと問うたところ円運動を示したので、この天日塩はメキシコ産であることが分かった。

(実施例 8)

ブランド牛肉として著名な本物の飛騨牛の小片を左手に持ち、その人差し指を検査しようとする牛肉（本物の飛騨牛）の方向に向けて、右手のセンサーロッドの動きを観察したところ綺麗な円運動を示し、これが本物の飛騨牛であることが確認された。次に、産地不詳の牛肉についてチェックしたところタテの直線運動を示し、飛騨牛でないことが分かった。

こんどは、飛騨牛と書いた紙片を左手に持ち同様のテストを行ったところ本物の飛騨牛では円運動を、別の産地不詳の牛肉では直線運動を示した。産地不詳の牛肉について、左手の紙片は持たずにその人差し指を肉片に向けながら、国内産ですか？と問うたところ縦揺れを示し、外国産ですか？と問うたところ円運動を示したので、この牛肉は輸入品であることが分かった。そこで、こんどはオーストラリア産ですか？と問うたところ直線運動を示し、アメリカ産ですか？と問うたところ円運動を示したので、この産地不詳の牛肉はアメリカ産であることが分かった。

(実施例 9)

ブランド鮎として著名な岐阜県の吉田川で釣れた鮎を左手に持ち、その人差し指を産地を特定しようとする鮎に向けながら、右手のセンサーロッドの動きを観察したところタテの直線運動を示したので、この鮎は吉田川の鮎ではないことが分かった。本物の吉田川の鮎の代わりに「吉田川の鮎」と書いた紙片を持った場合にも同様の結果であった。次に、紙片は何も持たずに左手の人差し

指を鮎に向けながら、「あなたは木曽川の鮎ですか」と問うたところ、右手のセンサーロッドは円運動を示し、長良川の鮎であることが分かった。

(実施例 10)

本物の真鯛を左手に持ち、その人差し指を「真鯛」と書いた紙に向けながら、右手のセンサーロッドの動きを観察した結果、きれいな運運動を示した。逆に「真鯛」と書いた紙を左手に握りしめ、その人差し指を本物の真鯛に向けたところ円運動を示した。

ただし、得られる結果はあくまでも波動的情報で参考データーであり、事実と異なる場合もあります。この場合、当方はその責任を負いかねます。

サイキックな感受性 (Psychic Sensitivity) :

占いの昔からの技法（振り子占い、骨占い、易、タロット、カードなど）と同じように、

ダウジングの成功を左右するのは、ダウザー個人のサイキックな感受性や、内的な中立状態に入る能力である。

つまり、何をダウジングするにしても、それを発見しようとする明確な意図を持って、ここに集中し、心をまよわせることなく、思考を脇にそらすことなく、その範囲内に捜し物がある可動化についての結果を得るという明確な偏らない意図があるべきです。

- ① 全ての先入観を捨てる
- ② 無心であること
- ③ 内的に完全に中立であること
- ④ 何かを探そうとする目標に集中する
- ⑤ サイキックな心に蓄えられているエネルギーを高いレベルに保つ
- ⑥ 練習に次ぐ練習